

小学校国語



1 単元における学習評価の進め方

単元における観点別学習状況の評価を実施するに当たり、以下のように進めることが考えられる。

評価の進め方	1	単元の目標を作成する	①、②については、学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説、児童の実態、前単元までの学習状況等を踏まえる。
	2	単元の評価規準を作成する	③については、①、②を踏まえ、評価場面や評価方法等を計画する。どのような評価資料を基に、「おおむね満足できる」状況(B)と評価するかを考へたり、「努力を要する」状況(C)への手立て等を考へたりする。
	3	「指導と評価の計画」を作成する	
		授業を行う	③に沿って観点別学習状況の評価を行い、児童の学習改善や教師の指導改善につなげる。
	4	観点ごとに総括する	④については、集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価(A、B、C)を行う。

2 国語科における学習評価の進め方

- Step 1 単元で取り上げる指導事項の確認
- Step 2 単元の目標と言語活動の設定
- Step 3 単元の評価規準の設定
- Step 4 単元の指導と評価の計画の決定
- Step 5 評価の実際と手立ての想定

国語科の評価は5つのStepで!

①の評価の進め方、①～③の段階において、5つのStepで考えていくなだよ。



Point!

単元の目標は「内容のまとまり」ごとに設定し、[学びに向かう人間性等]は、当該学年の学年の目標から設定する。評価の観点は「主体的に学習に取り組む態度」となる。

3 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成方法

国語科においては、「内容のまとまり」ごとの評価規準が単元の評価規準となることを踏まえて、単元で育成する資質・能力と言語活動に応じて、下記の①～④の内容を全て含めて作成する。

- ① 粘り強さ (例：積極的に、進んで、粘り強く等)
- ② 自らの学習の調整 (例：学習の見通しをもって、学習課題に沿って等)
- ③ 他の2観点 [知識・技能] [思考・判断・表現] において重点的に指導する内容 (特に、粘り強さを発揮してほしい内容)
- ④ 当該単元の具体的な言語活動 (自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動)

Point!

単元の評価規準を作成する際には「～しようとしている。」という文末を用いる。①～④の組合せを工夫する。

【例】小学校学習指導要領 第4学年 [思考力、判断力、表現力]

「C読むこと (1)エ」(言語活動例:C(2)イ)

単元における言語活動:物語を読んで、理解したことに基づいて、感じたことや考えたことを文章にまとめる。

[主体的に学習に取り組む態度の評価規準]

進んで、(①)登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像し、(③)学習課題に沿って、(②)感じたことや考えたことを文章にまとめようとしている。(④)

[本時における「おおむね満足できる」状況(B)の児童の姿]

感想に取り入れられそうな言葉をワークシートや友達から聞いた言葉などの情報の中から選ぶようしている。

具体的な児童の姿を設定しておくことが大切だね。

例えば・・・

- 学習課題を意識し、「青いけむり」「ばたりと取り落としました」に注目して感想に書くための言葉を選択し、必要な情報を付箋に書きながら集めようとしている姿

【評価方法】参考意見を付箋に書き込んでいる様子等のメモ

「努力を要する」状況(C)と判断される児童への手立てが大事になるんだね。



Point!

(C)と判断する状況にある児童に対して「手立て」を想定しておく。



(A)の児童の姿

- 学習課題を強く意識し、指示された場面だけでなく、複数の場面に目を向け、物語の全体像について書こうとしている姿

(C)の児童の姿

- 付箋に書いていないなど、感想に取り入れたい言葉を見付けられない姿

ワークシートから強く心に残ったことを思い出すように声かけをしたり、友達の意見を付箋に書き込む目的を再確認したりするよう促す。

4 単元の指導計画及び評価の具体的な場面（一部）

3の評価規準に基づき、「主体的に学習に取り組む態度」の評価場面や評価方法が示されている。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(1)オ	①「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)	①進んで、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って、感じたことや考えたことを文章にまとめようとしている。

4 指導と評価の計画（全9時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○学習のねらいや進め方を捉え、学習の見通しをもつ。 ○「ごんぎつね」を読み、内容の大体を捉える。	・学習のねらいと言語活動の内容を具体的に示し、学習の見通しがもてるようにする。 ・登場人物、主な出来事、結末などを捉えながら読むようにする。 ・場面の様子、登場人物の言動や様子などを表す語句に着目して読むように指導する。	[知識・技能①]ワークシート ・場面の様子や登場人物の言動、様子などを表す語句に着目し、語彙を豊かにしているかの確認
2		・必要に応じて辞書を活用するように指示する。	
3	○初発の感想を書き、読み合う。 ○学習課題を確認する。 ごんの思いは兵十に伝わったのかについて、読んだことを基に、感じたことや考えたことを文章にまとめよう。	・心に強く残ったこと、疑問に思ったことなどについて書くように指示する。 ・初発の感想のうち、多かった感想や疑問、学級全体で話し合いたいことなどを適宜取り上げていくようにする。	

各時間の具体的な学習活動を構想し、単元のどの段階で、どの評価規準〔知識・技能/思考・判断・表現/主体的に学習に取り組む態度〕に基づいて評価するのかを決定する。

Point!
「主体的に学習に取り組む態度」の評価をどの段階で行うのかを指導計画作成の際に決定しておく。

授業中の発言やノートの記述内容など、多様な評価方法で見取ることが大切になるね。



<p>【場面の移り変わり】</p> <p>①ごんがいたずらばかりする場面 ↓ ②ごんがいたずらを後悔する場面 ↓ ③ごんがつぐないを始める場面 ↓ ④ごんが兵十と加助の後をついていく場面 ↓ ⑤ごんが兵十と加助の話をこっそり聞いている場面 ↓ ⑥ごんが兵十にうたれてしまう場面</p> <p>※ [] は、取り上げる二つの場面</p>	4	○うなぎのいたずらへのつぐないを始める場面のごんと兵十の様子や行動、気持ちを想像する。(③の場面)	・表情やしぐさなどを想像しながら読むように指導する。 ・行動や会話、場面の状況を表す言葉などに着目するように指導する。	[思考・判断・表現①]ノート ・ごんと兵十の様子や行動、気持ちの変化について想像しているかの確認
	6	○ごんが兵十に撃たれてしまう場面のごんと兵十の気持ちの変化を考える。(⑥の場面) ※図1・2参照	・③や⑥の場面におけるワークシートを基にして考えをまとめるよう指導する。 ・友達の見解で参考になったことを適宜付箋にまとめるよう指示する。	[主体的に学習に取り組む態度①]ワークシート・観察 ・ごんや兵十の気持ちの変化について場面の移り変わりと結び付けて自分の考えをまとめようとしているかの確認
	7	○学習課題に示された、ごんの思いが兵十に伝わったかどうかについて、友達と考えを交流する。 ※図4参照		

【評価方法】
参考意見を付箋に書き込んでいる様子等のメモ

記録の総括の時期としては、単元末、学期末、学年末等の節目が考えられるよ。評価に係る記録が複数ある場合は、次のような方法があるから参考にしな。
○ 評価結果のA、B、Cを数値に置き換えて総括する場合
○ 評価結果のA、B、Cの数を基に総括する場合
その他にも、さまざまな方法が考えられるよ。
いずれにしても、評定への総括の考え方や方法は、教師間で共通理解を図り、児童及び保護者に十分説明し理解を得ることが大切だね。

